

わたしたちの水道

尾張旭市の水道施設



1 上水道施設管理センター

市内へ水を送っている配水池・調整池のようすを見ている施設です。

2 柏井配水場

柏井配水場には、
柏井配水池と高区
配水池があります。

柏井配水池は、旭台などの土地の高さの特に高い所へ水を送る施設です。

高区配水池は、市の南部・北部の土地の高さの高い所へ水を送る施設です。

3 旭ヶ丘配水場

低区配水池は、市の中央部の土地の高さの低い所へ水を送る施設です。

4 桜ヶ丘調整池

5 吉岡調整池

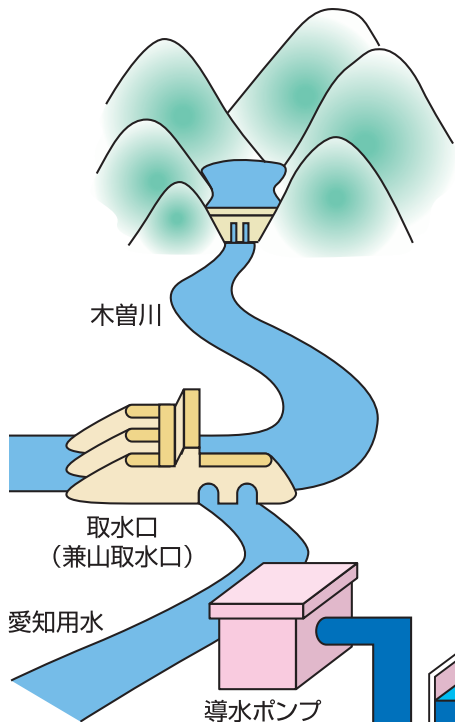
6 南山調整池

災害などで大規模な断水になった時に応急給水を行う施設です。かつては、朝夕水をたくさん使用する時間帯にポンプを運転し、それぞれの地区へ水をおぎなう施設でした。

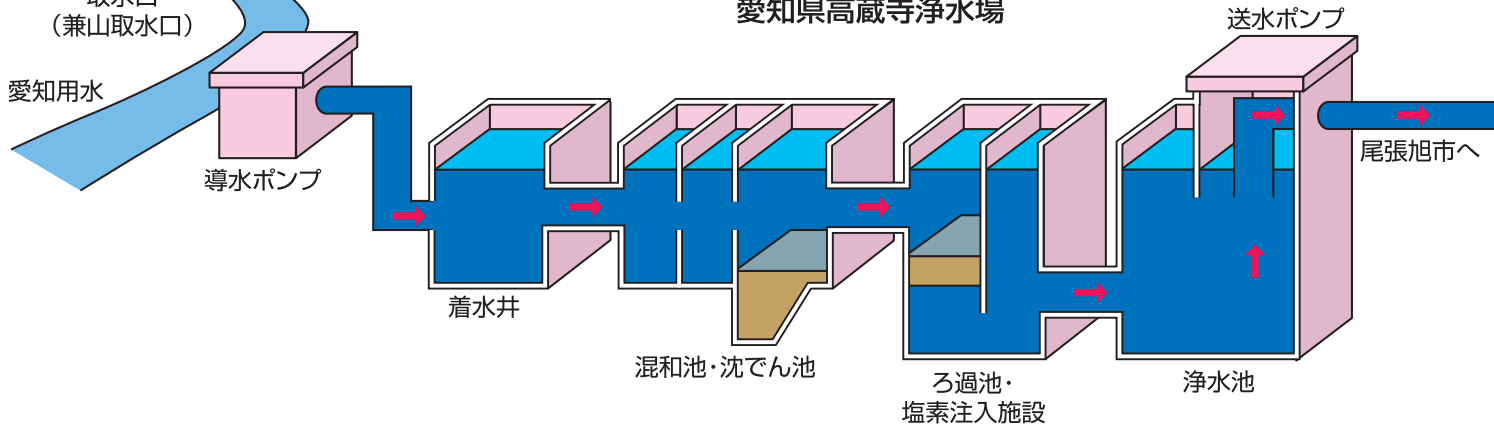
尾張旭市の水道水が家庭にとどくまで

わたしたちが毎日使っている水道の水は、^{ながの けん まき お}長野県の牧尾ダム、^{み そ が わ}味噌川ダム、^{ぎ ふ けん あ ぎ が わ}岐阜県の阿木川ダムから木曽川を流れ、^{ぎ ふ けん か ね や ま し ゅ す い こ う}岐阜県の兼山取水口から^{あ い ち けん こ う ぞ う じ じ ょ う す い じ ょ う}愛知用水を通り、^{あ い ち けん こ う ぞ う じ じ ょ う す い じ ょ う}愛知県の高蔵寺浄水場できれいにされ、^{す い だ ん し せ つ}市の水道施設を通して、みなさんの家庭や学校、工場などにとどきます。

浄水場のしくみ



あ い ち けん こ う ぞ う じ じ ょ う す い じ ょ う
愛知県高蔵寺浄水場



しゅ すい こう
取 水 口

木曽川の水を愛知用水に取り入れる。

どう すい
導 水 ポ ン プ

愛知用水の水を浄水場に^{じょうすいじょう}くみあげる。

ちゃく すい せい
着 水 井

^{じょうすいじょう}浄水場に^{くみあげた}水の量を調整し、^{にごり}にごりをしずめる^{やくひん}薬品をいれる。

こん わ ち ちん ち
混和池・沈でん池

^{やくひん}薬品の入った水をかきまぜて、水の中の小さなまざりものを大きなかたまりにしてしずませる。

か ち えんそちゅうにゅうしせつ
ろ過池・塩素注入施設

水を^{あつ}厚い砂の層にとおしてから、^{そう}薬品で消毒してきれいな水にする。

じょう すい ち
浄 水 池

きれいになった水をためておく池で、^{せいけつさ}せいけつさを保つため、池はおおわれている。

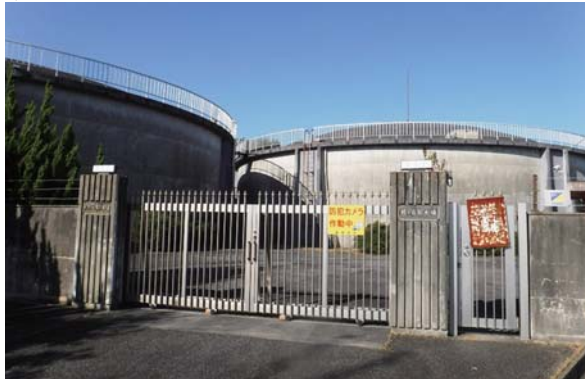
そう すい
送 水 ポ ン プ

きれいになった水にポンプで^{あつりょく}圧力をかけて、尾張旭市の水道施設に送り出す。

かしわ い はい すい じょう
柏 井 配 水 場



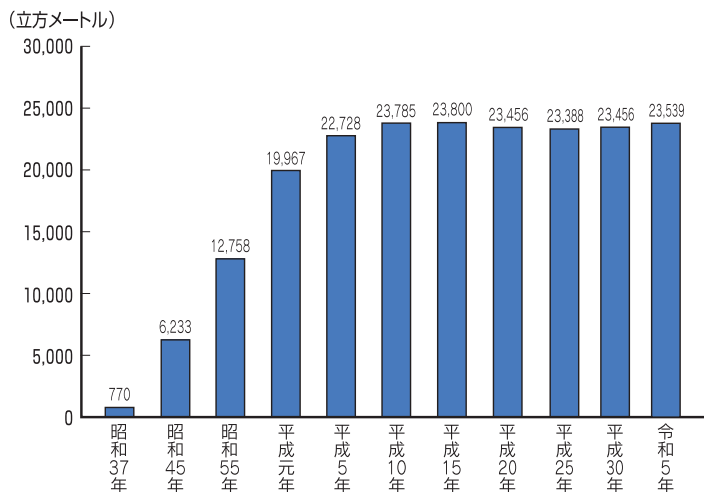
あさひ が おか はい すい じょう
旭ヶ丘配水場



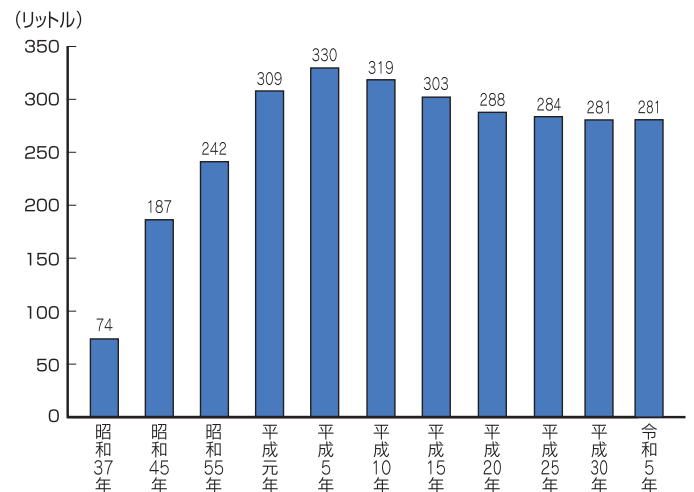
じょうすいどうしせつかんり
上水道施設管理センター



市内で1日平均して使用した水の量



市民1人が1日平均して使用した水の量



水道のうつりかわり

いまのような水道がなかったころ、人は川の水や地下水などの水をそのまま使っていました。

しかし、おおぜいの人がからすようになると、伝せん病^{よ ぼう か ざい}の予防や火災の消火のためにも、安心して水が使えるような設備^{せつ び}が必要になってきました。そこで、川や池などの水を砂などでこし、きれいにしてから町にひいてくることが考えられました。

日本ではじめてつくられた水道は、1590年、徳川家康^{とくがわいえやす}によってつくられたものとされています。これは、井之頭^{い の がしら}のわき水を20数キロメートルの用水路^{ようすいろ}で江戸^{え ど}の町までひいてきて、その水を石樋^{せき ひ}や木樋^{もく ひ}（石や木でつくられた現在の水道管^{げんざい すいどうかん}のようなもの）によって江戸の人たちに給水^{きゅうすい}したものです。

その後、近代式^{よこはま}の水道が横浜^{ながさき}、長崎^{はこだて}、函館^{ぼうえき}など貿易の盛んな港まちからできて100年以上が過ぎ、現在では日本のほとんどの人が水道を使っています。

尾張旭市^{あい ち けん}の水道は、愛知県が長野県三岳村^{ながの けん み たけむら げんざい}（現在の木曽町^{き そ まち}）・王滝村^{おうたきむら}の牧尾ダム^{まき お}を水源として昭和32年に始めた水道事業^{じぎょう}にあわせて、昭和35年に工事^{こうじ}を始め、昭和37年1月には待望^{たいぼう}の給水^{きゅうすい}ができるようになりました。その後、人口や水道の使用量^{しやうりやう}の増加^{ぞう か}とともに水道施設の整備事業^{すいどう し せつ せい び}がおこなわれてきました。

昭和46年には旭ヶ丘配水場^{あさひがおかはいすいじやう げんざい}（現在の上水道施設管理センター^{じやうすいどうし せつ かん り}）、昭和51年には低区配水池^{てい く はいすい ち}（現在の旭ヶ丘配水場^{げんざい}）、そして平成6年7月には柏井配水場^{はくせいはいすいじやう}が建設され、現在ではポンプを使わず、水が自然に流れる力^{し ぜん}を利用した方法^{し ぜんりゅうかしき}（自然流下式^{あんてい あんぜん}）で、安定して安全な水を市全体に給水^{し ぜんたい きゅうすい}できるようになっています。

水をたいせつに使いましょう

水は、水道のじゃ口をひねればかんたんに使うことができます。

しかし、水がわたしたちのところに来るまでには、多くの人たちの努力や協力、たくさんのお金がかかれています。また、水道の水には限りがあり、何日も雨がふらないと、ダムの水がなくなってしまう、かんたんに水を使うことができなくなってしまうです。

わたしたちの生活になくてはならない、限りある水をもう一度見直し、ふだんから水をたいせつに使いましょう。



歯みがきはコップで。流しっぱなしは、水のムダ使いです。



車をあらうときはバケツを使いましょう。ホースであらうとたくさん^{たくさん}の水が必要です。



水を使うときは出しすぎないように…。使ったあとは、じゃ口をきちんとしめましょう。



ふろのこり水は、せんたく・そうじ・まき水に使えます。